

★はじめに

ぷよを多くつなげる技術というものは結構な上級テクニックであって、本来初中級者向けの講座として正しいかというところがありますが、この技術が知識としてあると暴発が少なくなったり、無駄な連結が少なくなって本線伸ばしに困らなくなったりします。特に中盤を意識し始めの頃はふと繋げてしまった連結ぷよの扱いに困っている人は多かったです。それなりに適切なアドバイスになれるのではないかと思います。そうではない方も連結ぷよ技術の長所を取り入れてどんどん自分のぷよの戦術技術を鍛えていってほしいと思います。

★連結はなぜ強い？

ぷよを連結させると4連結→5連結させると1連鎖を除いておおよそ2割から3割ちょい増しになります連鎖数がかさむと連鎖中の時間が取られてしまうため、中盤戦においては小連鎖、同時消し、連結量増しにする方がよりコストパフォーマンス良くおじゃま量を送ることができます。以下はおじゃま算を活用した上での割合計算です。

| 連鎖数 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|---------------------|-----|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|
| 増分割合 4 連結→5 連結にした場合 | 0.6 | 0.36 | 0.289 | 0.247 | 0.224 | 0.216 | 0.212 | 0.21 | 0.208 | 0.207 |

(計算間違っていたらごめんなさい数学苦手です計算ミスります)

★ぷよの戦術における連結技術とは。

ぷよを連結させるといっても様々な用途と形の種類があります。連結の形の種類でよく使われるのはL字や、縦3や横3などですが、それらの形に適切に横2縦2単個を交えて暴発させにくい形を作っていけるようになります。

まずイメージが湧きにくいと思いますので、例を一つ上げて連結を使った土台構築を考えてみたいと思います。右図は後折手順で作成された土台の連結形です。この場合で中盤戦の一例を挙げるとすると、左側の黄色を交えた一列以上の牽制を打った後に、真ん中から土台を破壊できる、という戦術が取れるとなかなかかっこいいです。

この場合は、連結によって「暴発をさせやすくする」、という一般的な連結の使用法です。土台に



連結を多くして中盤で圧殺する戦法は楽しいですが、本線を伸ばす上での暴発の管理が非常に難しく Figure 1 なるため今回の内容ではやめておきます。興味がある方は連鎖シミュレータ上で起してみたり、実戦ならばぐっくるの積みを参考に戦術を組み立てていくといいのではないかと思います。

「L字」というものは縦にも横にもぷよの関連性が多くなるため超上級者の中盤戦で多用されますが、扱いが非常にシビアなため慣れない内の多様厳禁です。

★中盤における、形から考える連結のメリット&デメリット

- 縦3のメリット : キーぷよを消しやすい。
- 縦3のデメリット : 連鎖形に溝ができやすく残しが悪いと判断の遅れに繋がりがやすい。
- 横3のメリット : 多くの段差と干渉できるため咄嗟の対応時に役に立つ。
- 横3のデメリット : ゴミぷよによって思わぬところが消えてしまうことも多い。
- L字のメリット : 他の連結と組み合わせることによって同時消しが狙いやすい。
- L字のデメリット : 作りすぎると暴発の要因や本線が迷子になる。

★連結の管理方法

連結を扱う上で一番難しい所がどこまで連結させるべきか?といった管理だと思います。一番危険なのは、何かに使えるだろうと連結ぷよを高く高くタワー状に積んでいってしまうことです。あまりに多くなってしまった連結ぷよは連鎖量の低下や暴発の危険性を含んでいますし、判断も間違えてしまいがちです。連結の管理の方法で一番の秘訣は「良形」を組み合わせることです。momokenさんやようかん君の中盤を参考にしていくと部分的ではあると思いますが、良型の判断基準がわかるようになってくると思います。

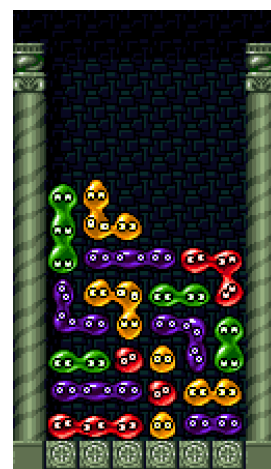


Figure 2